

「巴川水系流域委員会」設立趣意書

巴川水系は流域の約 50% が市街化された短時間に洪水の発生する典型的な都市河川で、平野部の河床勾配は約 2,000 分の 1 と洪水が流れにくく、昭和 49 年 7 月七夕豪雨や昭和 57 年 9 月洪水では甚大な被害が生じました。大谷川放水路や麻機遊水地の供用により安全性は徐々に高まっているものの平成 26 年 10 月台風第 18 号や令和 4 年 9 月台風第 15 号などの記録的な豪雨では、地域の安全・安心を脅かす浸水被害が発生しております。

現在の巴川水系河川整備計画は、平成 22 年 3 月に策定され、令和 3 年 4 月に計画を変更し新たな治水対策や津波対策を追加しました。その後、河川整備等を進めて参りましたが、策定以降の社会・経済情勢の変化に対し、新たな治水対策が必要になったことから巴川水系河川整備計画を変更します。

巴川流域は川とともに歴史を重ねてきた地域であり、巴川水系の河川は、地域の生活に密接なかかわりを持ち、静岡市街地の貴重な水と緑の空間として地域社会へ潤いを提供し、まちの景観形成などの重要な役割を担ってきております。

このような背景を踏まえると、河川整備計画は、「治水」「環境」「利用」が調和し、また、「巴川らしさ」を尊重したものであることが必要です。

そこで、巴川水系に深い関わりを持つ方々から、多くの専門的な知見、また、地域の声を得ながら河川整備計画の策定を進めるため、静岡県が「巴川水系流域委員会」を設立します。